

## 9. 当センター病院・再生医療リハビリテーション室の取り組み

病院リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室

大熊雄祐 愛知諒 大松聡子 中村和博 河島則天

### 1. はじめに

当センターでは、2017年の病院・再生医療リハビリテーション室設置以降、大阪大学医学部付属病院が実施する自家嗅粘膜移植、札幌医科大学が実施する骨髄間葉系幹細胞投与を施された慢性期脊髄損傷症例を受入れ、術前術後／投与前後のリハビリテーション効果検証についての臨床研究を行ってきた。本発表ではこの1年の取り組みについての報告を行うとともに、今後の展望について整理する。

### 2. 自家骨髄間葉系幹細胞投与（札幌医科大学付属病院との連携）

札幌医科大学病院が実施している骨髄間葉系幹細胞静脈投与は、亜急性期脊髄損傷症例に対しては「ステミラック注」の名称にて薬価収載に至っている。当センターでは、慢性期症例に対する細胞投与とその後のリハビリテーションの併用効果を客観的に検証し、身体諸機能のいかなる側面に、どのような機序で改善を生じるのかを明確化することを目的として臨床研究を進めている。現在のところ9例完了、2例進行中、2例実施予定であり、完全損傷症例における麻痺境界領域の尾側への機能拡張、不全損傷症例における麻痺領域の機能改善を示唆する結果を得ている。

### 3. 臨床上有用と思われる検査技術の診療オーダー下での実施

再生医療リハビリテーション室の取り組みのうち、効果検証のための精緻検査の実施は極めて重要である。中でも、運動誘発電位計測、脊髄反射計測、体性感覚誘発電位計測などの電気生理学的検査は身体機能の変化を捉える重要な評価手法である。再生医療リハビリテーション室設置当初は研究所にて実施していたこれら検査は、一昨年より診療オーダー下での臨床検査科での実施に移行することができ、今年度、治験症例選定のための外来検査も含め8名の検査を実施するに至った。

### 4. 今後の展望

再生医療、リハビリテーションの効果には個人差が極めて大きく、現時点では劇的な機能改善が期待できる段階にはないというのが正しい認識と言える。重要なことは、限定的な効果ではあるものの、慢性期脊髄損傷者に対する機能改善効果はADL改善にも直結する有益なものとなる可能性があるため、どのような対象者に、どのような目的で再生治療を提案すべきかなど、正しい効果認識に基づく情報の整理が必要であると考えられる。今後は、これまでに得た知見や成果を学会および論文での発表に繋げ、正確な情報の発信に努めていきたい。